

平成 16 年度農林水産情報交流ネットワーク事業地方アンケート
食の安全・安心に関するアンケート

本アンケートは、今後の食の安全・安心に関するリスクコミュニケーションの推進を図る基礎資料とするために、東北管内の農林水産情報交流モニター等(農業者、消費者) 529人を対象に実施し、443人から回答を得たものです。

結果の概要

1 最近の食品の安全性について

- 「ときどき不安になるときがある」が6割 -

最近、食品の安全性に対して不安を感じることは、「ときどき不安になるときがある」が63.2%で最も高く、次いで「あまり不安はない」(18.3%)、「大変不安である」(16.9%)、「まったく不安はない」(0.9%)の順となっている。(図1参照)

これを対象者別で見ると、消費者では「ときどき不安になるときがある」が73.0%と最も高くなっている。

また、年齢階層別で見ると、高年齢層になるほど「大変不安である」の割合は高くなっている。(図2参照)

図1 最近の食品の安全性について

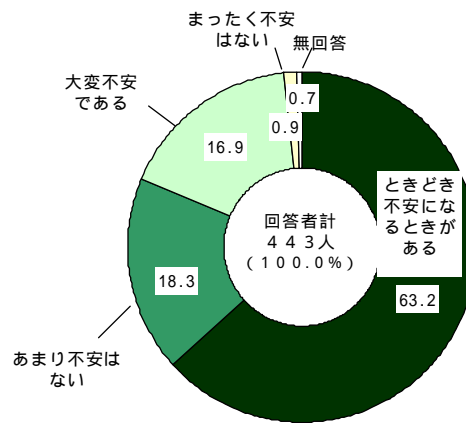
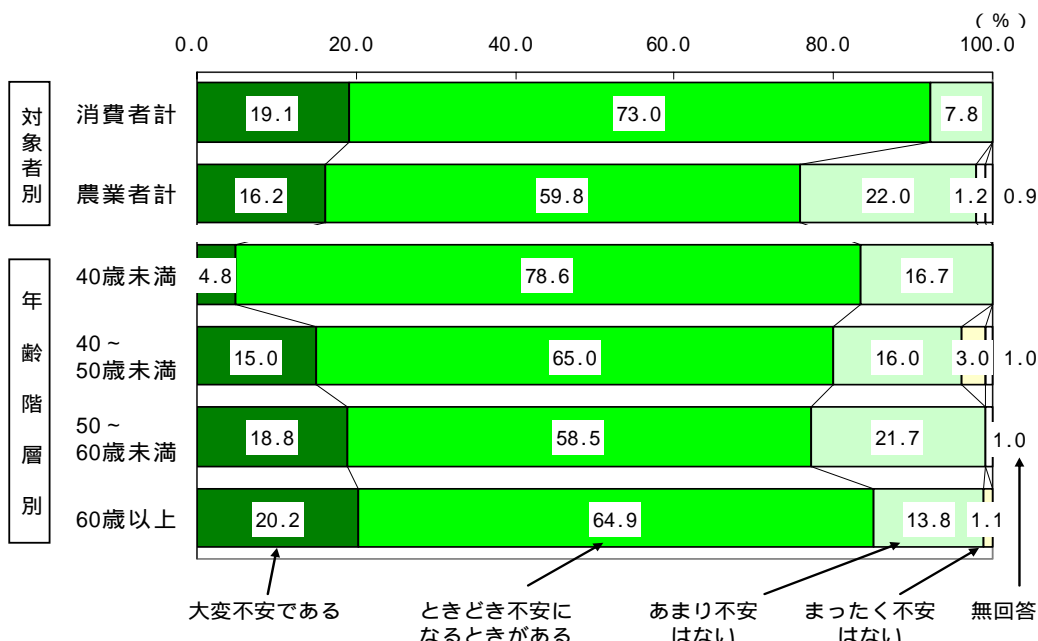


図2 最近の食品の安全性について(対象者別及び年齢階層別)

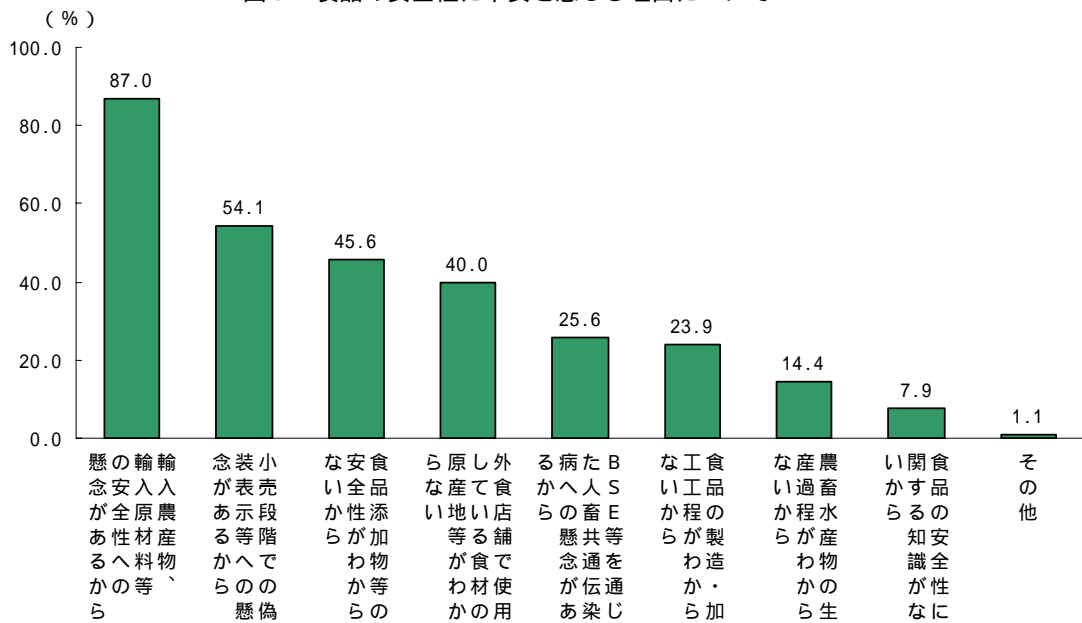


2 食品の安全性に不安を感じる理由（該当を全て回答）

- 「輸入農産物、輸入原材料等の安全性への懸念があるから」が9割弱 -

食品の安全性について、「大変不安である」、「ときどき不安になるときがある」と答えた方のそのように感じる理由は、「輸入農産物、輸入原材料等の安全性への懸念があるから」が87.0%と最も高く、次いで「小売段階での偽装表示等への懸念があるから」(54.1%)、「食品添加物等の安全性がわからないから」(45.6%)、「外食店舗で使用している食材の原産地等がわからない」(40.0%)の順となっている。(図3参照)

図3 食品の安全性に不安を感じる理由について



3 食の安全・安心に係る仕組みをどのように考えているか

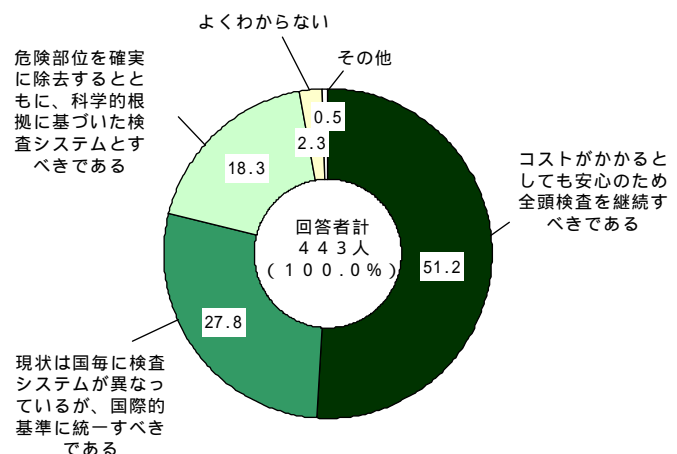
(1) BSEの検査システムについて

- 「コストがかかるとしても安心のため

全頭検査を継続すべきである」が5割 -

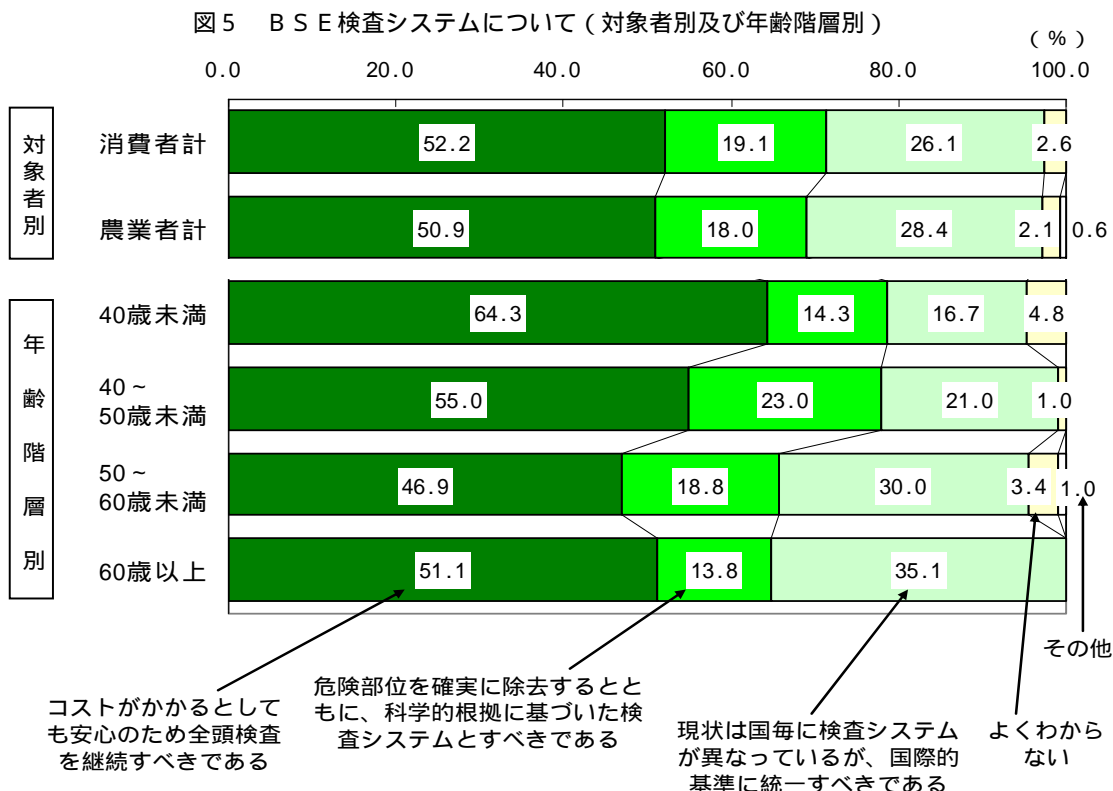
BSE検査システムをどのように考えているかは、「コストがかかるとしても安心のため全頭検査を継続すべきである」が51.2%と最も高く、次いで「現状は国毎に検査システムが異なっているが、国際的基準に統一すべきである」(27.8%)、「危険部位を確実に除去するとともに、科学的根拠に基づいた検査システムとすべきである」(18.3%)の順となっている。(図4参照)

図4 BSE検査システムについて



これを対象者別で見ると、消費者では「コストがかかるとしても安心のため全頭検査を継続すべきである」が52.2%と最も高くなっている。

また、年齢階層別で見ると、40歳未満の「コストがかかるとしても安心のため全頭検査を継続すべきである」が64.3%と最も高く、「現状は国毎に検査システムが異なっているが、国際的基準に統一すべきである」では、高齢層になるほど、その割合が高くなっている。（図5参照）

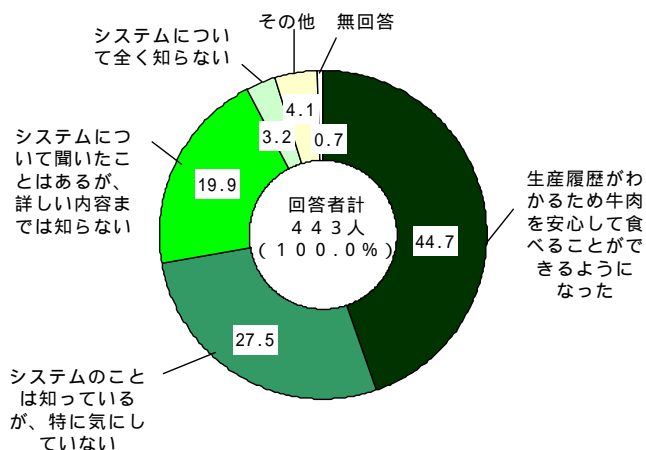


(2) 牛肉のトレーサビリティシステムについて

- 「牛肉を安心して食べることができるようになった」が4割強 -

牛肉のトレーサビリティシステムについてどのように考えているかは、「生産履歴がわかるため牛肉を安心して食べることができるようになった」が44.7%と最も高く、次いで「システムのことは知っているが、特に気にしていない」(27.5%)、「システムについて聞いたことはあるが、詳しい内容までは知らない」(19.9%)、「システムについて全く知らない」(3.2%)の順となっている。（図6参照）

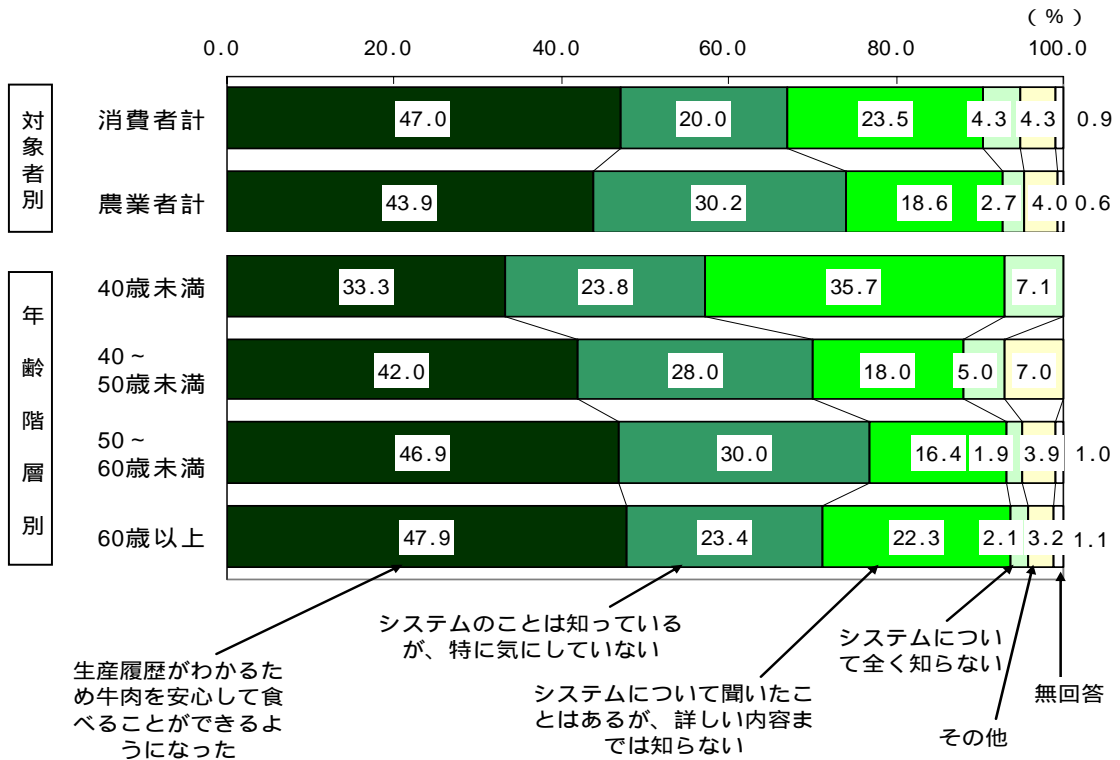
図6 牛肉のトレーサビリティシステムについて



これを対象者別で見ると、消費者では「生産履歴がわかるため牛肉を安心して食べることができるようになった」が47.0%と最も高くなっている。

また、年齢階層別に見ると、高年齢層になるほど「生産履歴がわかるため牛肉を安心して食べることができるようになった」の割合は高くなっている。（図7参照）

図7 牛肉のトレーサビリティシステムについて（対象者別及び年齢階層別）

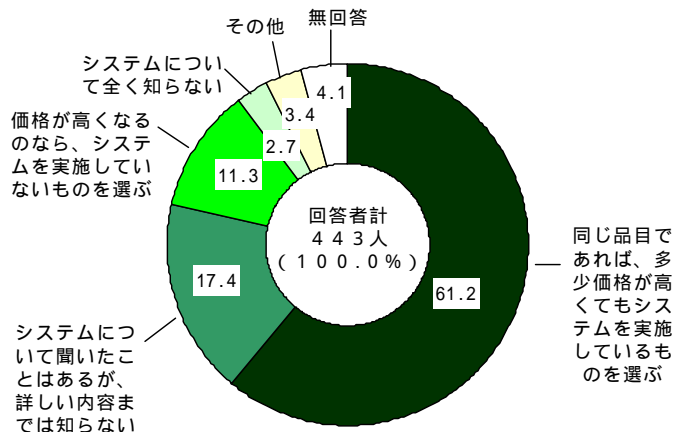


(3) 牛肉を除く食品のトレーサビリティシステムについて

- 「多少価格が高くてシステムを実施しているものを選ぶ」が6割 -

牛肉を除くトレーサビリティシステムをどのように考えているかは、「同じ品目であれば、多少価格が高くてシステムを実施しているものを選ぶ」が61.2%と最も高く、次いで「システムについて聞いたことはあるが、詳しい内容までは知らない」(17.4%)、「価格が高くなるのなら、システムを実施していないものを選ぶ」(11.3%)、「システムについて全く知らない」(2.7%)の順となっている。（図8参照）

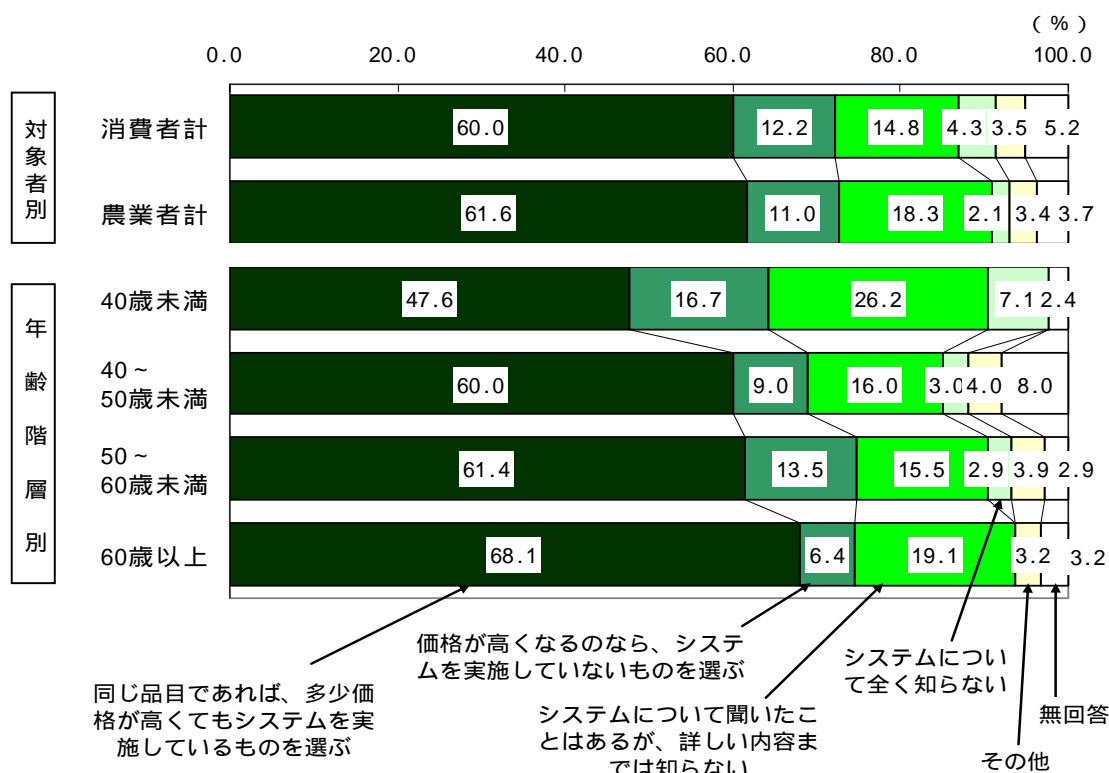
図8 牛肉を除く食品のトレーサビリティシステムについて



これを対象者別に見ると、消費者では「同じ品目であれば、多少価格が高くてシステムを実施しているものを選ぶ」が60.0%と最も高くなっている。

また、年齢階層別に見ると、高年齢層になるほど「同じ品目であれば、多少価格が高くてシステムを実施しているものを選ぶ」の割合は高くなっている。(図9参照)

図9 牛肉を除く食品のトレーサビリティシステムについて(対象者別及び年齢階層別)



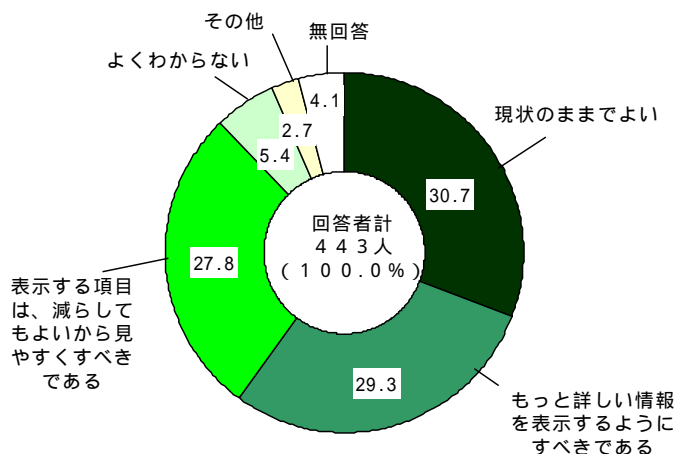
(4) 食品表示とJAS制度について

- 「現状のままでよい」、「もっと詳しい情報を表示すべき」、「表示項目を減らしても見やすくすべき」が3割 -

食品表示とJAS制度をどのように考えているかは、「現状のままでよい」が30.7%と最も高く、次いで「もっと詳しい情報を表示するようにすべきである」(29.3%)、「表示する項目は、減らしてもよいから見やすくすべきである」(27.8%)、「よくわからない」(5.4%)の順となっている。(図10参照)

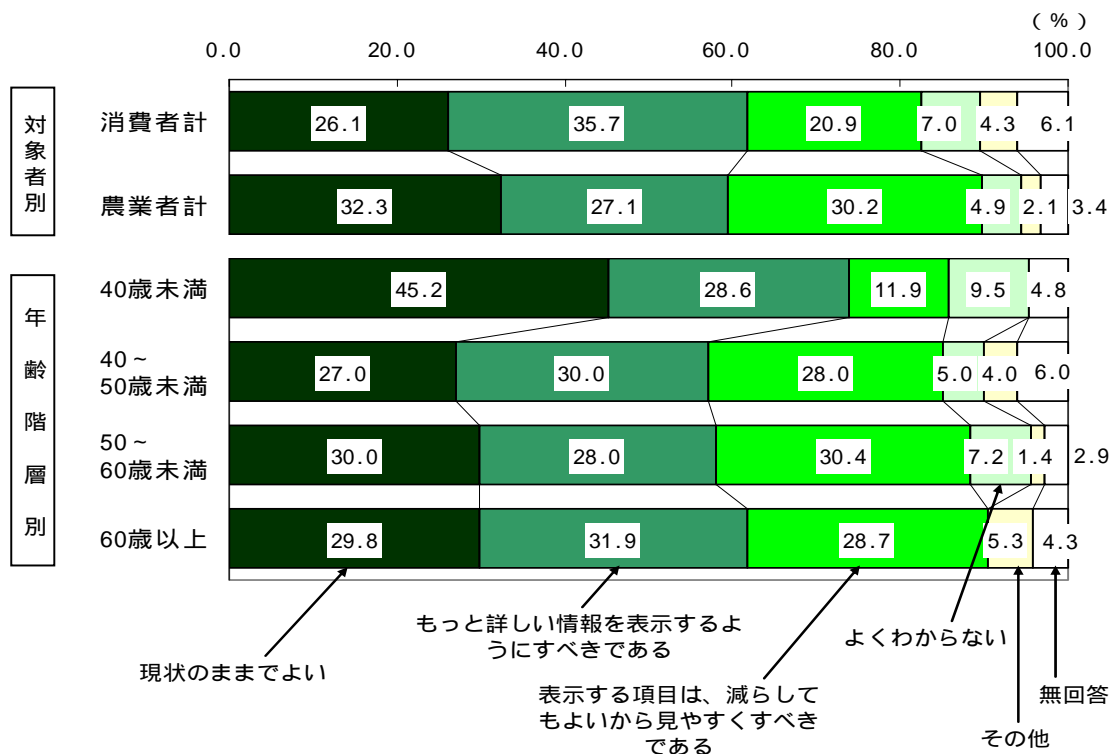
これを対象者別に見ると、消費者では「もっと詳しい情報を表示するようにすべきである」が35.7%と最も高くなっている。

図10 食品表示とJAS制度について



また、年齢階層別に見ると、40歳未満の「現状のままでよい」が45.2%と最も高くなっている。（図11参照）

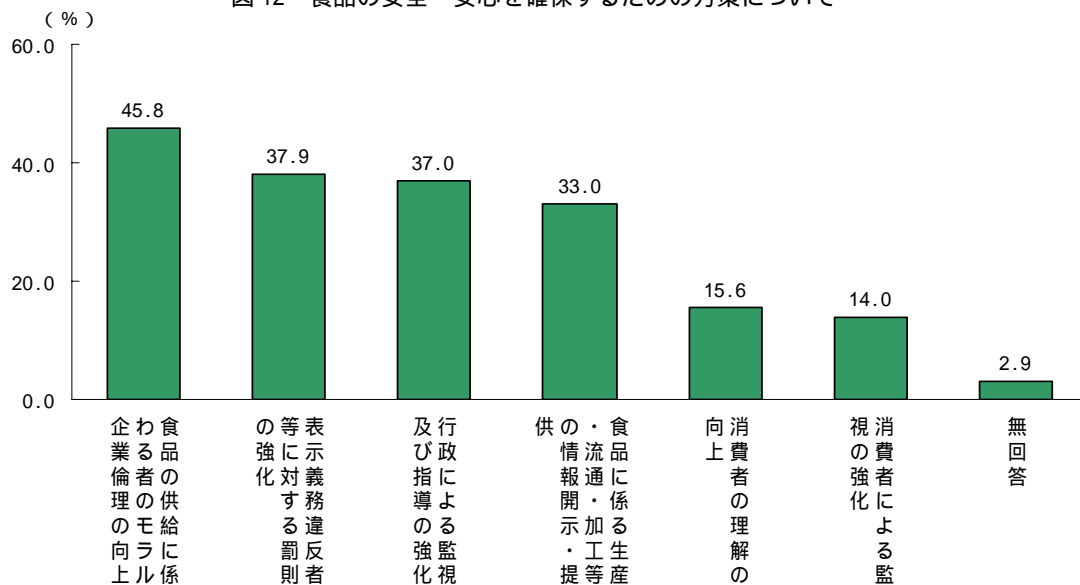
図11 食品表示とJAS制度について（対象者別及び年齢階層別）



4 食品の安全・安心を確保するための方策について（該当を2つまで回答） - 「モラル、企業倫理の向上」が5割弱 -

食品の安全・安心を確保するためにどうすれば良いと思うかは、「食品の供給に係わる者のモラル、企業倫理の向上」が45.8%と最も高く、次いで「表示義務違反者等に対する罰則の強化」（37.9%）、「行政による監視及び指導の強化」（37.0%）の順となっている。（図12参照）

図12 食品の安全・安心を確保するための方策について

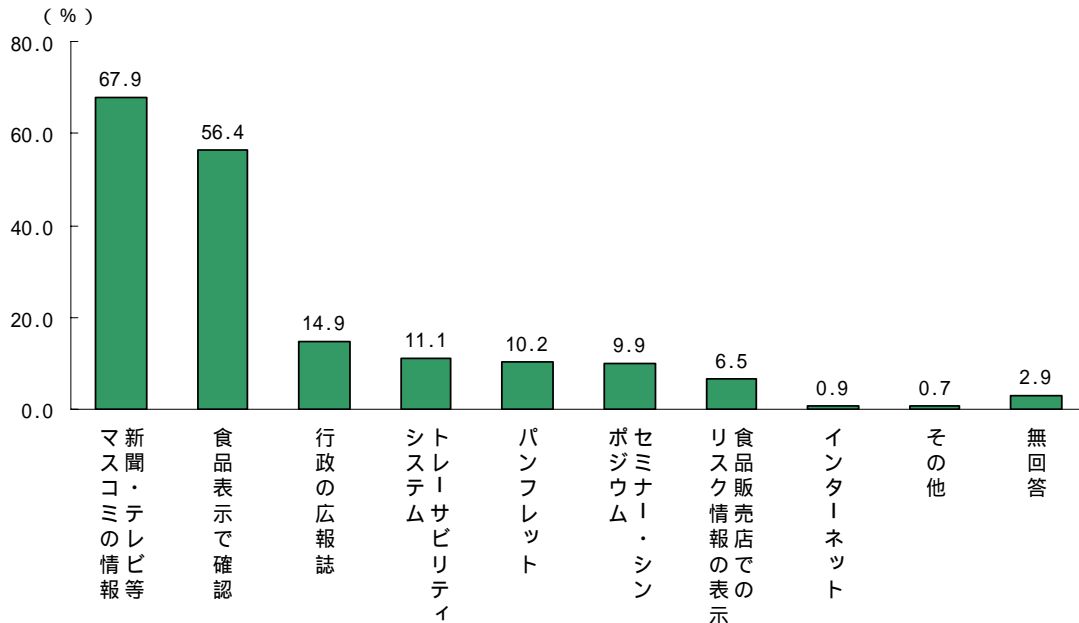


5 食品安全に関する確認（入手）方法について（該当を2つまで回答）

- 「新聞・テレビ等マスコミの情報」が7割 -

食品の安全に関する情報の確認（入手）をどのようにしているかは、「新聞・テレビ等マスコミの情報」が67.9%と最も高く、次いで「食品表示で確認」（56.4%）、「行政の広報誌」（14.9%）の順となっている。（図13参照）

図13 食品の安全に関する情報の確認（入手）方法について

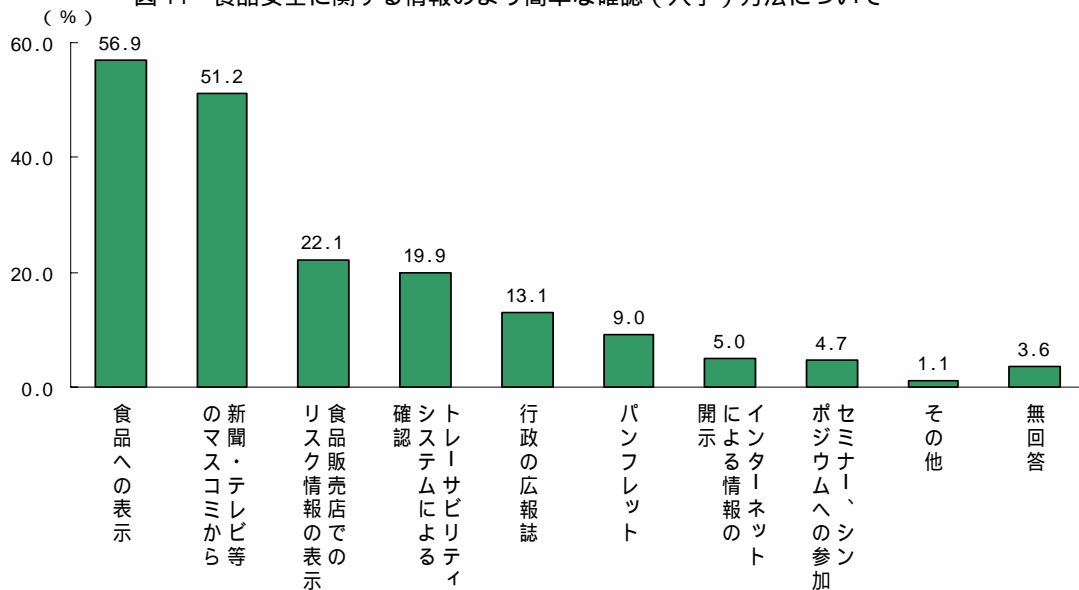


6 食品安全に関する情報のより簡単な確認（入手）方法について（該当を2つまで回答）

- 「食品への表示」、「新聞・テレビ等のマスコミから」が5割を超える -

消費者が、食品の安全に関する情報をより簡単に確認（入手）できるためにどのような方法が良いかは、「食品への表示」が56.9%と最も高く、次いで「新聞・テレビ等のマスコミから」（51.2%）、「食品販売店でのリスク情報の表示」（22.1%）の順となっている。（図14参照）

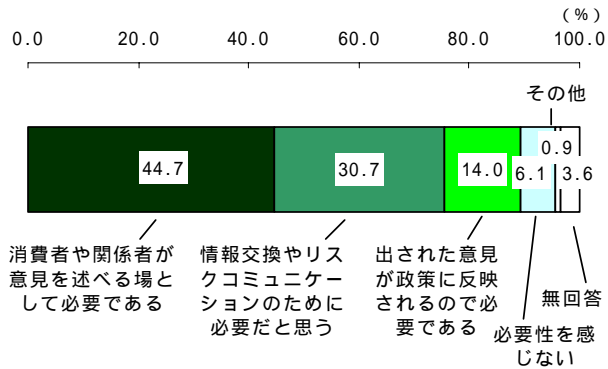
図14 食品安全に関する情報のより簡単な確認（入手）方法について



7 食の安全・安心に関するセミナー、シンポジウムの必要性について

- 「消費者や関係者が意見を述べる場として必要である」が4割強 -

図 15 食の安全・安心に関するセミナー・シンポジウムの必要性について



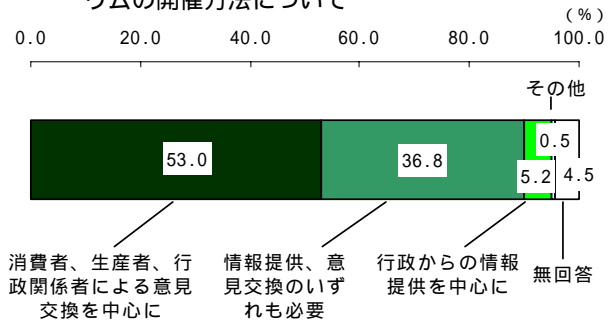
食の安全・安心に関するセミナー・シンポジウムが必要であるかは、「消費者や関係者が意見を述べる場として必要である」が44.7%と最も高く、次いで「情報交換やリスクコミュニケーションのために必要だと思う」(30.7%)、「出された意見が政策に反映されるので必要である」(14.0%)、「必要性を感じない」(6.1%)の順となっている。(図15参照)

8 食の安全・安心に関するセミナー、シンポジウムの開催方法について

- 「意見交換を中心に」が5割 -

食の安全・安心に関するセミナー・シンポジウムの開催方法はどのようにしたら良いかは、「消費者、生産者、行政関係者による意見交換を中心に」が53.0%と最も高く、次いで「情報提供、意見交換のいずれも必要」(36.8%)、「行政からの情報提供を中心に」(5.2%)の順となっている。(図16参照)

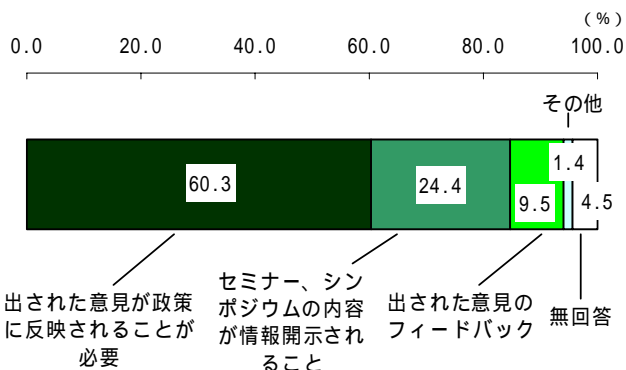
図 16 食の安全・安心に関するセミナー・シンポジウムの開催方法について



9 食の安全・安心に関するセミナー、シンポジウムを開催する上で留意すべき事項について

- 「出された意見が政策に反映されることが必要」が6割 -

図 17 食の安全・安心に関するセミナー・シンポジウムを開催する上で留意すべき事項について



食の安全・安心に関するセミナー・シンポジウムを開催する上でどのようなことに留意すべきと思うかは、「出された意見が政策に反映されることが必要」が60.3%と最も高く、次いで「セミナー、シンポジウムの内容が情報開示されること」(24.4%)、「出された意見のフィードバック」(9.5%)の順となっている。(図17参照)

結果表

1 あなたは、最近食品の安全性に対して不安を感じることがありますか。

単位：％

	回答者数 (人)	計	大変不安 である	ときどき 不安にな るときが ある	あまり不 安はない	まったく 不安はな い	無回答
合計	443	100.0	16.9	63.2	18.3	0.9	0.7
対象者別							
消費者計	115	100.0	19.1	73.0	7.8	-	-
農業者計	328	100.0	16.2	59.8	22.0	1.2	0.9
性別							
男性	325	100.0	14.8	60.9	22.5	1.2	0.6
女性	118	100.0	22.9	69.5	6.8	-	0.8
年齢階層別							
40歳未満	42	100.0	4.8	78.6	16.7	-	-
40～50歳未満	100	100.0	15.0	65.0	16.0	3.0	1.0
50～60歳未満	207	100.0	18.8	58.5	21.7	-	1.0
60歳以上	94	100.0	20.2	64.9	13.8	1.1	-

2 1で、「大変不安である」または「ときどき不安になるときがある」と回答した方にお聞きします。 不安を感じる理由はどのようなことですか。（該当する項目全て）

単位：％

	回答者数 (人)	計	農畜水産物の生産過程がわからないから	輸入農産物、輸入原材料等の安全性への懸念があるから	食品の製造・加工工程がわからないから	食品添加物等の安全性がわからないから	小売段階での偽装表示等への懸念があるから	外食店舗で使用している食材の原産地等がわからない	BSE等を通じた人畜共通感染症への懸念があるから	食品の安全性に関する知識がないから	その他	無回答
合計	355	100.0	14.4	87.0	23.9	45.6	54.1	40.0	25.6	7.9	1.1	-
対象者別												
消費者計	106	100.0	28.3	84.0	31.1	50.0	60.4	42.5	36.8	11.3	-	-
農業者計	249	100.0	8.4	88.4	20.9	43.8	51.4	39.0	20.9	6.4	1.6	-
性別												
男性	246	100.0	9.3	88.2	22.8	45.1	53.3	39.0	22.0	6.5	1.6	-
女性	109	100.0	25.7	84.4	26.6	46.8	56.0	42.2	33.9	11.0	-	-
年齢階層別												
40歳未満	35	100.0	14.3	71.4	25.7	40.0	57.1	22.9	25.7	5.7	-	-
40～50歳未満	80	100.0	11.3	91.3	23.8	48.8	55.0	43.8	27.5	8.8	-	-
50～60歳未満	160	100.0	17.5	88.1	20.6	45.6	51.3	40.6	23.1	8.1	1.3	-
60歳以上	80	100.0	11.3	87.5	30.0	45.0	57.5	42.5	28.8	7.5	2.5	-

3 食の安全・安心に係る仕組みについて、どのようにお考えですか。
 (1) BSEの検査システム(該当する項目1つ)

単位：%

	回答者数 (人)	計	コストがかかるとしても安心のため全頭検査を継続すべきである	危険部位を確実に除去するとともに、科学的根拠に基づいた検査システムとすべきである	現状は国毎に検査システムが異なっているが、国際的基準に統一すべきである	よくわからない	その他	無回答
合計	443	100.0	51.2	18.3	27.8	2.3	0.5	-
対象者別								
消費者計	115	100.0	52.2	19.1	26.1	2.6	-	-
農業者計	328	100.0	50.9	18.0	28.4	2.1	0.6	-
性別								
男性	325	100.0	52.3	18.8	26.5	1.8	0.6	-
女性	118	100.0	48.3	16.9	31.4	3.4	-	-
年齢階層別								
40歳未満	42	100.0	64.3	14.3	16.7	4.8	-	-
40～50歳未満	100	100.0	55.0	23.0	21.0	1.0	-	-
50～60歳未満	207	100.0	46.9	18.8	30.0	3.4	1.0	-
60歳以上	94	100.0	51.1	13.8	35.1	-	-	-

(2) 牛肉のトレーサビリティシステム(該当する項目1つ)

単位：%

	回答者数 (人)	計	生産履歴がわかるため牛肉を安心して食べることができるようになった	システムのことは知っているが、特に気にしていない	システムについて聞いたことはあるが、詳しい内容までは知らない	システムについて全く知らない	その他	無回答
合計	443	100.0	44.7	27.5	19.9	3.2	4.1	0.7
対象者別								
消費者計	115	100.0	47.0	20.0	23.5	4.3	4.3	0.9
農業者計	328	100.0	43.9	30.2	18.6	2.7	4.0	0.6
性別								
男性	325	100.0	43.1	30.5	19.1	3.1	3.4	0.9
女性	118	100.0	49.2	19.5	22.0	3.4	5.9	-
年齢階層別								
40歳未満	42	100.0	33.3	23.8	35.7	7.1	-	-
40～50歳未満	100	100.0	42.0	28.0	18.0	5.0	7.0	-
50～60歳未満	207	100.0	46.9	30.0	16.4	1.9	3.9	1.0
60歳以上	94	100.0	47.9	23.4	22.3	2.1	3.2	1.1

(3) 牛肉を除く食品のトレーサビリティシステム(該当する項目1つ)

単位：%

	回答者数 (人)	計	同じ品目であれば、多少価格が高くてシステムを実施しているものを選ぶ	価格が高くなるのなら、システムを実施していないものを選ぶ	システムについて聞いたことはあるが、詳しい内容までは知らない	システムについて全く知らない	その他	無回答
合計	443	100.0	61.2	11.3	17.4	2.7	3.4	4.1
対象者別								
消費者計	115	100.0	60.0	12.2	14.8	4.3	3.5	5.2
農業者計	328	100.0	61.6	11.0	18.3	2.1	3.4	3.7
性別								
男性	325	100.0	60.9	11.4	17.8	2.5	3.7	3.7
女性	118	100.0	61.9	11.0	16.1	3.4	2.5	5.1
年齢階層別								
40歳未満	42	100.0	47.6	16.7	26.2	7.1	-	2.4
40～50歳未満	100	100.0	60.0	9.0	16.0	3.0	4.0	8.0
50～60歳未満	207	100.0	61.4	13.5	15.5	2.9	3.9	2.9
60歳以上	94	100.0	68.1	6.4	19.1	-	3.2	3.2

(4) 食品表示とJAS制度(該当する項目1つ)

単位：%

	回答者数 (人)	計	現状のままでよい	もっと詳しい情報を表示するようにすべきである	表示する項目は、減らしてもよいから見やすくすべきである	よくわからない	その他	無回答
合計	443	100.0	30.7	29.3	27.8	5.4	2.7	4.1
対象者別								
消費者計	115	100.0	26.1	35.7	20.9	7.0	4.3	6.1
農業者計	328	100.0	32.3	27.1	30.2	4.9	2.1	3.4
性別								
男性	325	100.0	32.9	27.4	28.6	4.6	2.5	4.0
女性	118	100.0	24.6	34.7	25.4	7.6	3.4	4.2
年齢階層別								
40歳未満	42	100.0	45.2	28.6	11.9	9.5	-	4.8
40～50歳未満	100	100.0	27.0	30.0	28.0	5.0	4.0	6.0
50～60歳未満	207	100.0	30.0	28.0	30.4	7.2	1.4	2.9
60歳以上	94	100.0	29.8	31.9	28.7	-	5.3	4.3

4 食品の安全・安心を確保するためには、どうすればよいと考えますか。（該当する項目2つまで）

単位：％

	回答者数 (人)	計	行政による 監視及び 指導の 強化	消費者に よる監視 の強化	表示義務 違反者等 に対する 罰則の強 化	食品に係 る生産・ 流通・加 工等の情 報開示・ 提供	食品の供 給に係わ るモラル、 企業倫理 の向上	消費者の 理解の向 上	無回答
合計	443	100.0	37.0	14.0	37.9	33.0	45.8	15.6	2.9
対象者別									
消費者計	115	100.0	39.1	19.1	42.6	38.3	40.0	5.2	5.2
農業者計	328	100.0	36.3	12.2	36.3	31.1	47.9	19.2	2.1
性別									
男性	325	100.0	36.0	12.9	39.4	30.5	45.5	17.8	2.5
女性	118	100.0	39.8	16.9	33.9	39.8	46.6	9.3	4.2
年齢階層別									
40歳未満	42	100.0	38.1	16.7	45.2	40.5	35.7	4.8	2.4
40～50歳未満	100	100.0	33.0	14.0	37.0	36.0	49.0	14.0	4.0
50～60歳未満	207	100.0	32.4	12.6	35.7	34.3	46.4	21.7	2.4
60歳以上	94	100.0	51.1	16.0	40.4	23.4	45.7	8.5	3.2

5 あなたは、食品安全に関する情報をどのように確認（入手）されていますか。（該当する項目2つまで）

単位：％

	回答者数 (人)	計	新聞・テ レビ等マ スコミの 情報	パンフ レット	行政の広 報誌	セミ ナー・シ ンポジウ ム	食品表示 で確認	食品販売 店でのリ スク情報 の表示	トレーサ ビリティ システム	インター ネット	その他	無回答
合計	443	100.0	67.9	10.2	14.9	9.9	56.4	6.5	11.1	0.9	0.7	2.9
対象者別												
消費者計	115	100.0	62.6	7.0	20.9	13.9	48.7	9.6	10.4	2.6	2.6	5.2
農業者計	328	100.0	69.8	11.3	12.8	8.5	59.1	5.5	11.3	0.3	-	2.1
性別												
男性	325	100.0	70.8	9.8	15.4	7.4	56.6	6.2	10.2	1.2	-	2.5
女性	118	100.0	60.2	11.0	13.6	16.9	55.9	7.6	13.6	-	2.5	4.2
年齢階層別												
40歳未満	42	100.0	71.4	4.8	26.2	11.9	40.5	9.5	9.5	2.4	2.4	2.4
40～50歳未満	100	100.0	70.0	10.0	13.0	6.0	60.0	8.0	8.0	2.0	-	4.0
50～60歳未満	207	100.0	65.2	13.0	11.6	10.6	59.4	4.8	13.0	-	0.5	2.4
60歳以上	94	100.0	70.2	6.4	19.1	11.7	53.2	7.4	10.6	1.1	1.1	3.2

6 消費者が、食品の安全に関する情報をより簡単に確認（入手）できるようにするには、どのような方法が良いと考えますか。（該当する項目2つまで）

単位：％

	回答者数 (人)	計	新聞・テレビ等のマスコミから	パンフレット	行政の広報誌	セミナー、シンポジウムへの参加	食品への表示	食品販売店でのリスク情報の表示	トレーサビリティシステムによる確認	インターネットによる情報の開示	その他	無回答
合計	443	100.0	51.2	9.0	13.1	4.7	56.9	22.1	19.9	5.0	1.1	3.6
対象者別												
消費者計	115	100.0	60.9	7.8	13.9	5.2	60.9	13.0	16.5	4.3	1.7	4.3
農業者計	328	100.0	47.9	9.5	12.8	4.6	55.5	25.3	21.0	5.2	0.9	3.4
性別												
男性	325	100.0	49.8	9.8	12.9	3.4	56.0	24.0	19.7	5.2	0.9	3.7
女性	118	100.0	55.1	6.8	13.6	8.5	59.3	16.9	20.3	4.2	1.7	3.4
年齢階層別												
40歳未満	42	100.0	61.9	7.1	7.1	4.8	57.1	19.0	11.9	11.9	-	2.4
40～50歳未満	100	100.0	52.0	5.0	7.0	6.0	63.0	17.0	19.0	6.0	4.0	5.0
50～60歳未満	207	100.0	45.9	11.1	12.6	3.9	58.5	28.0	20.8	4.8	0.5	2.4
60歳以上	94	100.0	57.4	9.6	23.4	5.3	46.8	16.0	22.3	1.1	-	5.3

7 あなたは、食の安全・安心に関するセミナー、シンポジウムは必要だと思いますか。（該当する項目1つ）

単位：％

	回答者数 (人)	計	情報交換やリスクコミュニケーションのため必要だと思う	消費者や関係者が意見を述べる場として必要である	出された意見が政策に反映されるのが必要である	必要性を感じない	その他	無回答
合計	443	100.0	30.7	44.7	14.0	6.1	0.9	3.6
対象者別								
消費者計	115	100.0	35.7	44.3	11.3	2.6	1.7	4.3
農業者計	328	100.0	29.0	44.8	14.9	7.3	0.6	3.4
性別								
男性	325	100.0	29.2	44.9	14.2	7.4	0.6	3.7
女性	118	100.0	34.7	44.1	13.6	2.5	1.7	3.4
年齢階層別								
40歳未満	42	100.0	21.4	54.8	11.9	7.1	2.4	2.4
40～50歳未満	100	100.0	38.0	39.0	12.0	5.0	-	6.0
50～60歳未満	207	100.0	30.0	44.9	13.5	7.7	1.4	2.4
60歳以上	94	100.0	28.7	45.7	18.1	3.2	-	4.3

8 食の安全・安心に関するセミナー、シンポジウム等の開催方法はどのようにしたら良いと思いますか。（該当する項目1つ）

単位：％

	回答者数 (人)	計	行政からの情報 提供を中心に	消費者、生産 者、行政関係者 による意見交換 を中心に	情報提供、意見 交換のいずれも 必要	その他	無回答
合 計	443	100.0	5.2	53.0	36.8	0.5	4.5
対象者別							
消費者 計	115	100.0	3.5	40.0	52.2	-	4.3
農業者 計	328	100.0	5.8	57.6	31.4	0.6	4.6
性別							
男性	325	100.0	5.8	56.3	32.3	0.6	4.9
女性	118	100.0	3.4	44.1	49.2	-	3.4
年齢階層別							
40歳未満	42	100.0	4.8	40.5	52.4	-	2.4
40～50歳未満	100	100.0	8.0	46.0	37.0	1.0	8.0
50～60歳未満	207	100.0	4.3	56.0	35.7	0.5	3.4
60歳以上	94	100.0	4.3	59.6	31.9	-	4.3

9 食の安全・安心に関するセミナー、シンポジウム等を開催する上で留意すべき事項はどのようなことと思いますか。（該当する項目1つ）

単位：％

	回答者数 (人)	計	セミナー、シン ポジウムの内容 が情報開示され ること	出された意見の フィードバック	出された意見が 政策に反映され ることが必要	その他	無回答
合 計	443	100.0	24.4	9.5	60.3	1.4	4.5
対象者別							
消費者 計	115	100.0	23.5	11.3	59.1	0.9	5.2
農業者 計	328	100.0	24.7	8.8	60.7	1.5	4.3
性別							
男性	325	100.0	24.9	9.5	58.8	1.8	4.9
女性	118	100.0	22.9	9.3	64.4	-	3.4
年齢階層別							
40歳未満	42	100.0	19.0	16.7	61.9	-	2.4
40～50歳未満	100	100.0	24.0	17.0	50.0	1.0	8.0
50～60歳未満	207	100.0	24.2	6.8	64.3	1.4	3.4
60歳以上	94	100.0	27.7	4.3	61.7	2.1	4.3

利用上の注意

1 アンケートの内容

本アンケートは、今後の食の安全・安心に関するリスクコミュニケーションの推進を図る基礎資料とするために、農業者及び消費者が食の安全・安心に関するシステム、消費者の食品の安全に関する情報の確保、食の安全・安心に関するセミナー・シンポジウムについてどのように考えているか把握したものである。

2 アンケートの対象

東北管内の農林水産情報交流モニター等(農業者モニター、消費情報提供協力者)を対象とした。

3 実施時期

平成17年2月

4 アンケート方法

東北農政局、東北農政局取りまとめ統計・情報センターからの往復郵送により実施した。

5 アンケートの回収率

	配布者数 (人)	回答者数 (人)	回収率 (%)
農業者モニター	399	328	88.5
消費情報提供協力者	130	115	82.2

6 アンケート結果表の利用に当たって

- (1) 計と内訳はラウンドの関係で必ずしも一致しない。
- (2) 結果表に「(該当する項目2つまで)」、「(該当する項目全て)」の表示のあるものは、合計が100%にならない。
- (3) 結果表に使用した「-」は、事実がないものを示している。

7 用語の説明

(1) 牛肉のトレーサビリティシステム

牛トレーサビリティとは、1頭ごとの牛に出生と同時に生涯唯一の個体識別番号を付与し、その個体識別番号を印字した耳標を装着して、牛の出生から死亡又はとさつまでの間の管理者や飼養施設の異動記録や枝肉から消費者に販売又は提供されるまでの間の牛肉への個体識別番号の表示による伝達と流通業者による売買等の記録を行い、牛肉について牛の出生までの履歴の追跡を可能にするもので、法律で義務化されている。

(2) 米、野菜等、牛肉を除く食品のトレーサビリティシステム

食品におけるトレーサビリティシステムは、生産、処理、加工、流通、販売等の各段階で食品の仕入れ先、販売先、生産・製造方法などの記録をとり、保管することによって食品の履歴情報を追跡し、さかのぼることをいい、万一食品事故が発生した場合、履歴をさかのぼって把握し、被害の未然防止や拡大防止に活用できる。こちらは、牛肉のトレーサビリティシステムと異なり、事業者が任意で取り組む仕組みである。

連絡先：東北農政局総務部情報推進課 電話：022(263)1111内線4272 ホームページ： http://www.tohoku.maff.go.jp/
